

■エリートサラリーマン

の性犯罪と「内から外へ」の原則

修正： 2016.03.01

投稿： 2016.03.01



エリートサラリーマン の性犯罪と原則

●エリートサラリーマンの性犯罪と「内から外へ」の原則①

誰もが羨む大手商社に勤務し、
月収数十万の高給取りなエリートサラリーマンが、ある日、
わいせつな目的で盗撮したとして逮捕されました。

駅の女性トイレに度々隠しカメラを設置したとのことで、
押収されたパソコンからは、
盗撮したと思われる画像が数百枚見つかりました。
よくある事件です。

「えー、なんでそんなエリートサラリーマンが…」
「あー、もったいない、高学歴高収入だったのにな…」
「そんなことで人生を棒に振るなんて、バカだなこいつ…」
「おいおい、お前、子供もいる身で、何やってんだよ！」

と、散々、周囲は口にしませんが、
そんな周囲よりも誰よりも、本人が一番
「俺はなんてバカなことをしてしまったんだろうか…」
と後悔しています。

犯罪というものは、後から振り返ってみるとつまらないものばかりです。
このエリートサラリーマンの例にしても、
得るものより失うものの方が遥かに多いのです。

ということは、**頭では分かっているけど、どうしても行動に移してしまいます。**
「ここまでは大丈夫。ここまでは大丈夫。でも、
これ以上はやってはダメだ。やってしまったら人生おしまいだ。」
と、分かっているけど、どうしても行動に移してしまうものです。

わいせつなシーンを想像するだけなら犯罪とはならないでしょう。
法律では、ここまでは大丈夫な領域とされています（暗示的に）。ですが、
隠しカメラを設置する、という一線を越えてはいけません。

ということ、**あれほど身をもって思い知ったはずなのに、**

どうしても手が出てしまうのが人間です。

(続)

//=====//

●エリートサラリーマンの性犯罪と「内から外へ」の原則②

女性トイレに隠しカメラを設置し
逮捕されたエリートサラリーマンも、

あれほど熱心に、生徒を相手に道德倫理を教えていた、
にも関わらず、窃盗容疑で逮捕された教頭先生も、

多くのファンに愛されながらも
薬物に手を出してしまった有名人も、

「ここまでは大丈夫。でもこれ以上は犯罪だ。」

という超えてはいけない一線は理解していたはずですが。
頭では分かっているが、抑えられずに行動に移してしまうのが人間です。

昔から「**蒔かぬ種から芽は出ない**」と言われてきました。
芽が出るのは種を蒔いたからですよ、と因果応報が教えられてきたのです。

「想像するだけなら大丈夫」と、誰にも知られない頭の中で、
「女性トイレに隠しカメラを設置したくなる種」を密かに蒔き、
その妄想を膨らませ続けた結果、種は芽を出し、やがて、
行動に移さなければ気が済まないほどに、大きく成長していったのです。

かたやエリートサラリーマンとして振る舞いながらも、
「いつかは犯罪に発展する強い性欲の種」を育て続ければ、

そうした未来が訪れても何ら不思議ではありません。

内にあるものはいつか必ず外へ出る、
蒔かぬ種から芽は出ない、蒔いた種からは必ず芽が出る、
気持ちから行動へ、「内から外へ」の原則です。

種を蒔いたなら、
それが善い種であっても悪い種であっても、
あなたの意志に関係なく、
いつか必ず芽を出すことになります。

ではいつ、そのエリートサラリーマンは、
「女性トイレに隠しカメラを設置したくなる種」
を心の中に蒔いてしまったのでしょうか？

(続)

//=====//

●エリートサラリーマンの性犯罪と「内から外へ」の原則③

仏教では、行いは、
意業（思うこと）、口業（言うこと）、身業（行うこと）
の3種類に分類されています。

その中で最も（というよりも、おそらく、みなさんの想像以上に）
重視しているのが、意業です。

内にあるものはいつか必ず外へ出る、
蒔かぬ種から芽は出ない、蒔いた種からは必ず芽が出る、
気持ちから行動へ、「内から外へ」の原則がある以上、

心の行いを重視するのは至極当然のことです。

先のエリートサラリーマンの例だと、既に性欲という形で、
心の中に種は蒔かれてしまっていたのでしょう。しかし、
それを日々日頃から妄想し、思いを巡らしたことで種は育ち、
やがてコントロールできないまでに暴走していきました。

本当は、**そうなる前に妄想を止め、**
心の中の小さな芽を、摘み取らなければなりませんでした。

「いやいやいや、心の中で思うくらい…」と思う人もいるでしょうが、
そのように軽く考えているから、**やがて抑えられなくなり、**
犯罪に走ってしまうのです（犯罪と分かっていながら）。

「ふーん、でも、そこは我慢すればいいんでしょ？」
って、**その我慢ができないからこそ、**困っているのです。

2013年に「いつやるの？ 今でしょ！」が流行語となりました。
「今やらなくて、明日できるわけないでしょ！」
ということでしょう。同様に、

我慢できるのは、**「まだ芽が小さいうちだけ」**です。
だからこそ、コントロールできる「まだ芽の小さいうち」に、
その芽を摘み取る努力をしなければならないのです（意業）。

（続）

//=====//

●エリートサラリーマンの性犯罪と「内から外へ」の原則④

女性トイレに隠しカメラを設置し逮捕された
高学歴高収入のエリートサラリーマンを例にとって、
「内から外へ」の原則を説明してまいりました。

自己啓発書として名高いナポレオン・ヒル氏の書籍に
「思考は現実化する」があります。これも、
タイトルだけ見ると「内から外へ」の原則です。

ただ、思考どころか、妄想も善意も悪意も、敵意もエゴイズムも、
何もかもが、内から外へと放たれることになります。
「年をとると生き様が顔に表れる」と言われています。

卑しいことばかり考えて生きてきた人は、
卑しい顔つきの老人になっていきます。

逆に、善を信じて生きてきた人は、
柔和な顔つきの老人になっていきます。

また、何も考えずに生きてきた人は、
何も考えていないような顔つきの老人になっていきます。

あらゆるものが内から外へと向かっています。人間ですから、
「これは外に出てもらっては困る」という想いの一つも
心の中にはあることでしょう。それも、そのままにしておけば、
「いつかは外へ出ていく」ことになります。

「いや、俺は、人に知られたくないことは、
絶対に誰にも喋らないから、外に出ていくことはない！」
という人は、喋らなければバレない、とでもお思いでしょうか？

生き様が顔に表れるように、あなたの心は、しぐさ、目つき、
うっかり発言、趣味嗜好、所有物、短気、病気、体臭、脳波、心拍数、
人と会って緊張してしまう、などなど、あなた全身で表現されます。
(脳波を読み取って、その人が何を考えているか分かる時代になりました)

知られてはまずいことがあるなら、

バレないように隠すのではなく、**心の中から変えていく**しかありません。

自分を変えるなら**早め早め**、「まだ芽の小さなうちに」です。

(完)

//=====//

Web サイト：

心を力学する ー原理・原則に基づく生き方を考えるー

著者：

時無 和考(Tokinashi Kazutaka)